

みずほCustomer Desk Report 2019/06/26 号(As of 2019/06/25)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	107.34
TKY 9:00AM	107.34	1.1400	122.38	1.2738	0.6967
SYD-NY High	107.41	1.1412	122.47	1.2784	0.6978
SYD-NY Low	106.78	1.1344	121.68	1.2672	0.6942
NY 5:00 PM	107.18	1.1365	121.88	1.2690	0.6962
NY DOW	26,548.22	▲ 179.32	日本2年債	-0.2300	0.00bp
NASDAQ	7,884.72	▲ 120.98	日本10年債	-0.1600	0.00bp
S&P	2,917.38	▲ 27.97	米国2年債	1.7349	0.15bp
日経平均	21,193.81	▲ 92.18	米国5年債	1.7285	▲ 1.82bp
TOPIX	1,543.49	▲ 4.25	米国10年債	1.9876	▲ 2.93bp
3ヵ月日経先物	21,055	▲ 125	独10年債	-0.3320	▲ 2.40bp
ロンドンFT	7,422.43	5.74	英10年債	0.7920	▲ 2.30bp
DAX	12,228.44	▲ 46.13	豪10年債	1.2680	▲ 2.85bp
ハンセン指数	28,185.98	▲ 327.02	USDJPY 1M Vol	6.70	0.27%
上海総合	2,982.07	▲ 26.07	USDJPY 3M Vol	6.82	0.23%
NY金	1,418.70	0.50	USDJPY 6M Vol	6.93	0.17%
WTI	57.83	▲ 0.07	USDJPY 1M 25RR	-1.20	Yen Call Over
CRB指数	180.88	0.89	EURJPY 3M Vol	7.03	0.12%
ドルインデックス	96.18	0.20	EURJPY 6M Vol	7.32	0.11%

【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
6月25日	23:00	米 新築住宅販売件数	5月 626k	684k
	23:00	米 コンファレンス・ド消費者信頼感	6月 121.5	131
6月26日	02:00	米 パウエルFRB議長 講演	「景気見通し注視し、適切に行動」	
	04:30	米 パーキン・リッチモンド連銀総裁 講演	政策は依然として「緩やかに緩和的」	
	07:30	米 ブラード・セントルイス連銀総裁 講演	「政策はやや引き締めのからやや緩和的に」	

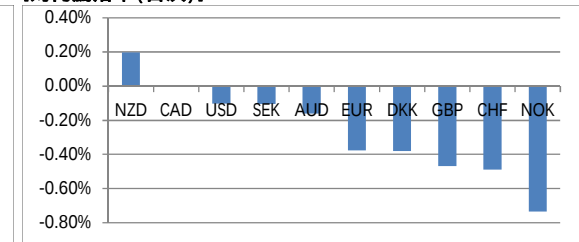
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
6月26日	18:00	欧 メルシュECB専務理事 講演	-	-
	18:15	英 テンレイロBOE委員 講演	-	-
	21:30	米 耐久財受注(前月比)・速報	5月 -0.2%	-2.1%
	21:30	米 耐久財受注(除輸送用機器)・速報	5月 0.1%	0.0%
	21:30	米 卸売在庫(前月比)・速報	5月 0.5%	0.8%

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	106.80-107.60	1.1330-1.1400	121.40-122.30

【マーケットインプレッション】

昨日のドル円は下落圧力の強まる展開となった。東京時間に上海株の下落や米10年債金利の低下を背景にドル円は一時1月3日以来の安値106.78まで下落。海外時間に入り米長期金利が反発し107円台まで持ち直すも、発表された米5月新築住宅販売件数と米6月消費者信頼感指数が市場予想を下回ったことから再び106.80円台まで下落。その後ブラード・セントルイス連銀総裁が「50bpの利下げを実施する状況にはない」と発言したことから米大幅利下げ観測が後退、ドル円は107.40まで上昇も、パウエルFRB議長が「多くのFOMC参加者は、さらに幾分か緩和的な政策の論拠が強まったと判断している」と述べたことが伝わると107.10円台まで下落した。

本日のドル円は小幅下落を予測する。米景気の後退から米早期利下げ期待は更に強まっている他、中東における地政学的リスクの高まりからリスクセンチメントも悪化しており、ドル売り円買いの下地ができていく状況。G20サミット控え様子見ムードは強まっているものの、ドル円は上値重く推移するものと考えられる。

東京	東京時間のドル円は107.34レベルでオープン。107円前半でもみ合った後、昼前から下落方向に転じた。上海株の下落や米10年債金利の低下も相場を下押しした格好となった。昼過ぎには107円を割り込み、一時106.78をタッチ。その後上海株が反発するとドル円も上昇し、106.97で欧州時間へ渡った。(東京15:30)
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、106.97レベルでオープン。アジア時間に進んだ円高だが、欧州時間は107円を挟んだもみ合いに。特に新しい材料もなく106.92-107.14のレンジで推移し107.09レベルでNYに渡った。ポンドドルは、1.2756でオープン。朝方とくに材料もない中1.2784まで強含むもすぐに売り戻される。昼ごろに、とくに材料のない中でドルが上昇するとポンドは売られ1.2726まで下落し1.2729でNYに渡った。次期首相の決戦投票を控え両候補のコメントが流れてはいたが特に市場が材料視した様子はいくつか見なかった。(ロンドン・トルリー 00531 444 179 神田)
ニューヨーク	前日のトランプ米大統領の「イラン最高指導者に制裁を科す」との発表に対し、イランは「新たな制裁は、米国との外交の道筋が永遠に断たれたことを意味する」と述べており、米国とイランの対立激化が懸念される中、海外市場のドル円は、リスクオフの円買いに一時106.78まで下落後、107.14まで戻し107.09レベルでNYオープン。朝方は米5月新築住宅販売件数と米6月消費者信頼感指数が予想を下回ったことから、ドル売りが優勢となり106.84まで下落。午後はFOMCのメンバー内でも最もハド派として知られているブラード・セントルイス連銀総裁が「50bpの利下げを実施する状況にはない」と発言したことが伝わると、米大幅利下げ観測が後退し、軟調な低金利が下がり始める動きにドル円も107.40まで上昇する。しかし、その後、パウエルFRB議長が講演の質疑応答で「インフレの低下基調が金融緩和への議論に繋がっている」と述べると107.15まで反落。終盤は狭い値動きとなり、107.18レベルでクローズ。一方、海外市場のユーロドルは、一時1.1412まで上昇する場面もあったが、独金利の低下に圧迫され、1.1377まで反落し、1.1383でNYオープン。朝方は予想よりも弱い内容の米経済指標結果を背景にドル売りが進み、1.1399を付けるが、1.14台を回復することは出来ず、反落。午後はブラード・セントルイス連銀総裁の発言を受けてドルが買い戻されたことから1.1344まで急落する。終盤は1.1370付近で小動きとなり、1.1365でクローズ。(NY井上)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:小笠原・原田